

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371501111		
法人名	株式会社ひかり倶楽部		
事業所名	グループホーム「うたたね」2F		
所在地	愛知県名古屋市長区高針1丁目801番地		
自己評価作成日	令和3年11月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方だけではなく、医療行為が必要な方、精神疾患の重い方など、受け入れ体制を幅広く行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371501111-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症問題が続いていることもあり、当ホームでも利用者の外出や外部の方との交流が困難になっているが、ホームの継続した取り組みとして日常的にレクリエーション活動を実施しており、利用者の生活が単調にならないような取り組みが行われている。ホームの基本理念には、利用者一人ひとりの生活に根ざした支援を目指す内容が掲げられており、職員間で利用者に関する情報を共有しながら、利用者の生活が前向きなものになるような支援が検討されている。医療面での支援も充実しており、利用者が長年に渡り医療面での支援を受けていた医療機関を継続できるように、職員の協力を得ながら継続する支援が行われている。また、利用者の中には、医師及び看護師との連携を深めた支援を行いながらホームでの生活を継続しており、一人ひとりの状況等に合わせた対応が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年6月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の理念に基づき職員と共有して実践につなげる努力をしている。施設玄関や、フロアに理念を掲示してある。	運営法人の基本理念の内容をホームの支援の基本に考えており、各フロア内に理念の掲示が行われている。また、5項目の理念には、利用者一人ひとりに合わせた対応を心がける内容も掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の為、今の時期はボランティアなどの交流は行えていない。	感染症問題が長期化していることで、地域の方との交流が困難になっており、現状、交流等は行われていない。例年は、地域の中学校との職場体験等の交流が行われており、地域貢献につながる活動が行われている。	地域の方との交流が中断している状況が続いていることもあるため、今後に向けて、徐々に交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今の段階では地域の方に向けて活かされていない。コロナ禍で外出もできず交流ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度、運営推進会議を実施していたが、コロナの影響で外部の方は参加せず施設内職員のみで行っている。	会議については、書面による実態が続いており、会議の関係者に書面を通じてホームの運営状況の報告が行われている。例年は、会議に合わせて利用者の事例検討も行われており、関係者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護の方が入所されている為役所へ行った際には現状報告をしている。	市担当部署とは生活保護の方を通じた情報交換や困難事例に関する相談等、様々な状況に合わせた対応が行われている。また、運営法人の関連事業所を通じた情報交換等も行われており、ホームの運営への反映につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	危険を伴う方や、感染症のある方で拘束をやむを得ず行う場合は、家族の承諾の上で行っている。その際には、経過記録、毎月の施設内会議では拘束についての検討会議を行っている。年に2回は拘束についての勉強会を実施している。	ホームでは、職員間の他にも医師、看護師とも連携しながら、利用者の健康状態に合わせた対応が行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討を行いながら、利用者への言葉遣い等を意識する取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内での虐待がないよう、小さな事でも気付いた事があれば報告し、ケアについて話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者においては学ぶ機会もあるが、その他職員は学ぶ機会がないのが現状である。利用困難な方が多い為活用されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前には、重要事項、契約書に対して十分な説明を行い、理解を得て入所して頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時などに家族様から意見や要望があれば運営に反映できるようにしている。	当ホームには利用者と家族との交流が困難な方も生活しているが、交流が可能な方については、定期的な便りの作成や随時の情報交換等が行われている。また、利用者や家族からの要望等については、法人代表者も対応する体制がつくられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会社内で各施設の管理者が集まり定期会議を行い、意見交換や提案など管理者を通して聞く機会が設けられおり、職員の意見や提案を吸い上げている。	ホームでは、職員間で随時の情報交換の機会をつくっており、職員から出された意見等を管理者が把握し、法人代表者にも報告しながらホームの運営への反映につなげている。また、法人代表者もホームに訪問し、現状を把握する取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	会社内での定期会議のより、管理者から職場現状などの報告をし把握している。職員の意見なども取り入れ各自が向上心を持って働けるように考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の能力に合わせた研修の機会を設け、社内研修での発表、報告ができる環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍で外部との交流はないが、意見交換などは行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来る限りご本人の要望に添えるようにしているが、実際には希望に添えない現状もある為、不安を最小限にするよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の方との面談の際には、不安や要望など聞き入れ安心して頂けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族様、ご本人の意向を把握し、状況に合わせたサービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護する立場だけではなく、利用者様からの信頼がもてるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で面会の機会が減っている中で、何かあれば直ぐに連絡し報告出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設を移動されてきた方でも昔から通い慣れた病院や、馴染みの環境との継続ができるよう支援している。	利用者の中には、入居前からの医療機関を受診している方もあり、ホーム職員の支援を得ながら受診に出かける等、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、家族との交流については、感染症問題の状況もみながら対応している段階である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロアでの状況を把握し、席の配置などを考え関わり合いが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられる形で契約が終了する事が多いが、今でも運営推進会議へ参加して下さる家族様とは関係を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所後、本人の様子を観察し生活習慣、生活歴から職員で話し合い、出来る限り本人の意向に添えるよう検討している。	ホームでは、日常的に職員間で情報交換を行う時間をつくりながら、利用者や家族からの意向等を職員間で把握する取り組みが行われている。また、定期的なカンファレンスも行われており、利用者や家族からの意向等を検討する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前にご本人、家族様から話を機会を作り、それまでの担当相談員等から情報を得られるよう努めている。病院、他施設からの移動では、サマリーや他施設情報をもとに経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常の様子、状態観察などは報告、申し送りノートに記載し、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	状態の変化などに合わせてケア会議を行い、職員同士で意見交換し現状に合わせた介護計画を作成している。	介護計画は1年での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にも職員間で支援内容を共有する取り組みが行われており、介護計画の内容を把握し、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録(カルテ)や申し送りノートへ気づきや報告等を行うことで情報共有し、ケアの統一を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	法人内での他施設との交流があるが、コロナ禍の為参加出来る事も少ない。ズームなどで音楽療法は毎月参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を利用する機会がなく、今後地域での活動など参加できるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期往診の医師はいるが、それ以外の専門医(精神科)は馴染みの病院へ通院している。何かあれば直ぐに連絡し報告、相談ができるようにしている。	協力医による医療面での支援の他にも、今までの医療機関を継続している方もあり、ホーム職員による受診支援も行われている。また、ホームに看護師が勤務している他にも、運営法人の関連の訪問看護の看護師との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の状態や変化を把握し口頭やメモなどで必ず看護職へ報告している。その際は看護職の判断で主治医へ連絡、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今まで通り慣れた病院へ入院などができるよう、普段から受診した際には情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医、家族様とは終末期において話し合いを行っている。家族様のご意向に添い、状態によっては主治医に早くから相談している。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、職員間で利用者の状況に合わせた支援が行われている。利用者の中には、ホームで最期を迎える方もあり、医師、看護師とも連携しながら、利用者や家族の意向等に合わせた支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な勉強会や緊急時のマニュアルが常に閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回消防の定期訓練を行い、全職員が出来るよう対応している。地域との協力体制は整っておらず、今後の課題となる。	ホームでは、年2回の避難訓練が行われており、夜間を想定した対応等が行われている。ホームの近隣に消防署(名東消防署)があることで、非常災害時の連携にも取り組んでいる。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	利用者の中には迅速な移動が困難な方も生活していることもあるため、非常災害時の利用者の避難誘導等、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症あってもプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	ホームの基本理念には、利用者の意向等を把握し、利用者が快適に過ごすことができるような支援を目指す内容が掲げられており、管理者を通じて職員への注意喚起につなげている。また、言葉遣い等、職員への随時の注意喚起等も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	家事仕事、趣味など出来る限り本人の希望や思いを聞き入れ、自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の施設での流れは決まっているが、その中でも本人の状態により、その方に合わせたペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望があれば毎日の衣類など要望は聞き入れる。2か月に一度訪問美容によりカットして頂き、本人の希望に添うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には、テーブル拭きや食器拭きなどの準備や片付けに参加して頂いている。食事面では、法人内の事業所からの配食で季節のメニューなどがあり、食事で楽しめるような工夫もされている。	食事は、平日は関連事業所のキッチンから提供し、土日は外部業者から提供している。利用者の身体状態に合わせた食事形態は、ホーム職員で対応している。また、おやつ作り際には、利用者もできることに参加する取り組みが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人内事業所からの配食となっており、栄養士による献立で栄養バランスを確保している。食事形態を個別で対応しその時の状況に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	介助の必要な方は毎食後歯磨き、義歯洗浄、歯磨きが困難な方にはスポンジブラシを利用して介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	日常的に日計表に時間、排泄を記録し排泄パターンを把握している。必要な方は声掛けし支援している。	利用者の排泄記録を残し、職員間で情報交換等を行いながら、一人ひとりに合わせた支援につなげている。利用者の中には、排泄に関する医療面での支援が必要な方が生活しており、医師、看護師とも連携しながら、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘を促す食事や水分摂取などで工夫し、1日2回ラジオ体操の運動を行い、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日や時間は決まっている為希望には添えないが、その人の状態や気分などに応じて、時間や日にちをずらし対応している。体調不良で入浴できない方には清拭で対応している。	ホームでは、利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、利用者の身体状態に合わせた、複数の職員による対応も行われている。また、備え付けのリフトも活用しながら、浴槽に入浴してもらう支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、生活習慣で活動量を増やし、夜間よく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報は各利用者様のファイルへ綴り常に最新情報に更新している。薬服薬時に重複確認し誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの役割楽しみごとなど本人の希望能力に合わせ、歌や裁縫、家事手伝いなど行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出は出来ていないが、施設内で行事を行い楽しめるよう支援し、天気の良い日は施設内で散歩、日光浴など行っている。	現状、利用者の外出が困難になっているが、ホームの外に出る機会をつくる等、徐々に外出の機会を増やす取り組みが行われている。また、利用者の中には、ホームから離れた場所にある医療機関に受診する等、個別に外出する支援も行われている。	ホームでも可能な範囲で利用者が外に出る機会をつくっているが、今後に向けて、段階的に外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様がお金を所持する事はしていない為、必要に応じて家族の方や、施設職員で購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族がいない方がほとんどで、家族がいる方でも本人の希望がない為支援はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は照明を明るくし、過ごしやすい温度、湿度を保つように配慮している。壁には利用者様と職員とで、絵や作品を作成し毎月季節感を味わえるよう工夫している。	ホーム内は広めの空間がつくられていることで、両ユニットの利用者が集まったレクリエーションの取り組み等も行われている。また、ホームのリビングには、季節等に合わせた飾り付けを行う等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様同士で話ができるよう座る配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた家具や馴染みのものを持ち込んだり、好きな絵を飾ったり居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室については、自身の作品等を飾る等、その人らしい居室づくりが行われている方他にも、利用者の様々な事情からシンプルな雰囲気のある居室の方もいる。また、居室に収納スペースが確保されていることで、居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや利用者様の居室には目印や写真を貼って自分で判断できるよう工夫している。		